



弘前大学地域創生本部ボランティアセンター Hirosaki University Volunteer Center

TOPICS

弘前大学総合文化祭 大学体験ツアー	市民ボランティア講座①	市民ボランティア講座②	令和7年度 第2回研究体験事業	除雪ボランティア	企画展のご案内
----------------------	-------------	-------------	--------------------	----------	---------

EVENT01

弘前大学総合文化祭で「大学体験ツアー」を開催

令和7年10月18日（土）・19日（日）に開催された第24回弘前大学総合文化祭において、小学生を対象とした「大学探検ツアー」を両日計3回開催し、計13名の小学生が参加しました。

学生ボランティア引率のもと、まずは総合教育棟を訪れ、北日本考古学研究所展示室にて「縄文土器・土偶作品展」を見学し、国際連携本部サポート・オフィス「グローバル体験フェア」では入国審査を体験したり、「医学科展」にてボウリングや輪投げで細菌や身体の器官について楽しみながら学んだり、外科手術体験や妊婦体験などをしました。

理工学部では、ロボティクス研究会による「ロボット・電子工作展示」ではロボットやさまざまな機械や装置の操縦を体験し、農学生命科学部では、フィールドサイエンス研究会の「小さな博物館」では、生物の標本を見ながら解説を聞き、環境微生物学研究室の「キノコ展示会」では生のキノコや珍しいキノコの標本を見学しました。さらに「農学生命科学部動物標本展示室」では、はくせい標本やホルマリン標本、骨格標本を観察し、生物の奥深い魅力に触れていました。

最後に、当センターにて、お菓子のくじ引きを行い、小学生と学生ボランティアが交流を楽しみ、1時間半ほどの探検ツアーは終了しました。小学生たちはとても楽しそうに大学内を探検し、大学の研究や各種活動に興味を持った様子でした。

併せて、当センターでは「野田村カフェ」を実施し、震災直後から継続的な支援を行っている岩手県野田村の「のだ塩」の販売や、ドリンクメニューの提供を行ったほか、ポスター展示による当センターの活動報告も行いました。

多くの方にご参加・ご来場いただきありがとうございました。



EVENT02

令和7年度第1回市民ボランティア講座を開催

一般社団法人みらいなっと弘前と共に令和7年10月16日（木）、今年度1回目となる市民ボランティア講座『地域食堂（だれでも食堂）からはじまる地域づくり』を、人文社会科学部4階多目的ホールで開催しました。

鳥取市では、団体・企業・行政の官民連携かつ広域連携の中で子ども食堂が実施されており、子どもを中心に地域の様々な人が集う「地域食堂」として発展しています。本講座は、そうした活動について伺い、子どもの居場所づくりに向けて私たちに何ができるのかを考えることを目的として開催され、子ども食堂の運営者や行政関係者、高校生、大学生など、計35名が参加しました。



前半では、『地域食堂（だれでも食堂）からはじまる地域づくり』をテーマに、鳥取市役所 総務部 人権政策局 中央人権福祉センター 総括主査 川口 寿弘氏が基調講演を行いました。川口氏は講演の中で、生活困窮者支援を目的として2015年に始まった子ども食堂が、現在は地域食堂として70を超える団体の支援を得て7市町に広がりを見せていること、魅力あるまちづくり・効果的な支援の観点から官民連携プラットフォームを設立したことなどについて述べられました。特に、鳥取市が実施した調査によって、居場所の有無が子どもの自己肯定感と生活満足度に影響を及ぼすことがわかり、そのことが行政として取組みを推進するきっかけになったとお話されていました。

後半は、講師の川口氏、一般社団法人みらいなっと弘前 代表理事の鹿内 葵氏、コーディネーターの李 永俊 地域創生本部ボランティアセンター長（人文社会科学部 教授）が参加し、会場からの質問に答える座談会を行いました。

参加者からは、子ども食堂の活動を近隣自治体へどのように広げていくべきかという質問が寄せられました。子ども食堂を実施する意義について根拠を示しながら活動に対する理解と支援を得ること、また定期的な話題作りを行ってマスコミに活動を取り上げてもらうことの重要性が、実際の経験をもとに講師から紹介されました。

当センターでは、今後も地域課題解決に資する様々な取組みを行っていく予定です。

EVENT03

令和7年度第2回市民ボランティア講座を開催

令和7年11月16日（日）に弘前大学文京町キャンパス内第一体育館にて、今年度2回目の市民ボランティア講座「避難所運営訓練in弘前大学」を開催しました。本講座は、一般社団法人男女共同参画地域みらいなっと及び弘前市との協働により、内閣府防災に採択された「官民連携による避難所運営の質の向上強化事業」の一環として実施したものです。

「官学民による多様性配慮の避難所運営訓練」をテーマに、地域住民と学生が主体となり避難所の改善に取り組む訓練とし、下宿や一人暮らしの市外出身学生が地域住民と一緒に活動し交流を図りながら、また、専門分野の学生が訓練に関わることで専門の学びを活かしながら、質の高い避難所づくりの実践を目指しました。当日は学生12名、市民25名、その他ボランティアスタッフ等を含む計55名が参加しました。

プログラムは3部構成で、第1部のオリエンテーションでは、男女共同参画地域みらいなっと 代表理事 小山内 世喜子 氏による講話が行われました。避難所が日常生活の場となるフェーズへと移行する過程で、被災者のニーズは変化するため、段階に合わせた支援が必要なこと、多様性に配慮した避難所づくりの手法や支援のあり方、災害関連死ゼロの避難所にするために必要なことは何かを学び、公助だけに頼らず自助・共助の意識を高めてほしい旨が伝えられました。

第2部の班別訓練では、まずはさまざまな要配慮者を想定し、それぞれが感じる不安や必要な支援について考えることで、続く「総務・情報班」「乳幼児世帯班」「要配慮者班」「施設管理班」「衛生班」に分かれた避難所の運営者としての避難所づくり体験では、多様な人々を具体的に想定しながら、テントや段ボールベッド等物品の配置や細かな環境の整備につながりました。

第3部の全体訓練では、各班が工夫した点を発表した後、互いのスペースを見学し、参加者同士が自発的に意見を交わし、さらに学びを深め、最後に、今回の講座を通して得た気づきや感じたこと、さらに工夫すべき点について参加者同士で共有しました。参加者からは、「多様な人がいるからこそこの配慮が必要だと実感した」「限られた資源で対応する難しさを感じた」「初めて会う人同士で協力するのは容易ではないが、積極性が大切だと思った」「非常時に多様性まで考えて行動するのは難しいため、日頃から意識しておくことが重要だと感じた」など、熱意のこもった感想が聞かれました。

災害に関する知識等は継続して学ぶことが重要であるため、本センターでは今後も、地域の方々と共に防災についての体験ができる場を作りたいと考えています。



EVENT04

令和7年度第2回研究体験事業を実施

令和8年2月21日（土）に弘前大学構内において、小学生を対象に、令和7年度第2回研究体験事業「大学の研究ってなにしてるの？」を実施しました。

本事業は、子どもたちに大学の研究を体験してもらうことで、大学の研究についての理解を深めるとともに、研究に直接触れることにより刺激を与えることを目的としています。当日参加した小学生17名は、学生ボランティアとともにテーマの異なる2つの講義を体験しました。

昼休憩時は、お弁当を食べた後、皆で「いっどこでだれが何をしたゲーム」や「津軽のじゃんけん」を行い、コミュニケーションをとりながら和やかな時間を過ごしました。



①人文社会科学部 佐々木 あすか 助教

「日本美術作品の作者が工夫した表現とは？鑑賞から見つけよう！」

佐々木助教より美術作品についての解説があった後、子どもたちは5グループに分かれ、参加者同士で協力して東大寺の四天王像について作者の工夫やそれぞれの作品について意見交換、発表を行いました。



②農学生命科学部 管原 亮平 助教

「実験昆虫はどうやって世話をする？」

子どもたちは、管原助教やゼミの学生より昆虫の特性などを熱心に聞き、「カメムシ」と「カマキリ」への給餌体験の場面では積極的に取り組み、生きものに対する理解を深めました。

子どもたちは、他の参加者や学生ボランティア、教員と笑顔で会話しながら、楽しそうに活動に取り組んでいました。



EVENT05

令和7年度除雪ボランティア

令和8年1月31日（土）・2月1日（日）の計2日、のべ20名の本学学生・教員が参加し、弘前大学近隣地域の歩道や通路等の除雪を行いました。交差点および道路脇に積もった雪を対象とした排雪ボランティア活動を実施しました。主に、右左折時の視界を遮っている交差点部の雪山や、歩道沿い・道路脇に積み上がった雪を対象に、スコップ等を用いて排雪作業を行いました。

作業にあたっては、道幅が狭く、交通量も多い場所での活動となったため、車両や歩行者の動きに十分注意しながら参加者同士で声を掛け合いながら、安全を最優先に進めました。

弘前市では1月として観測史上最大の積雪量を観測するなど大雪となり、除雪実施箇所においても、雪が積み重なっており歩行が困難な状況でしたが、参加者それぞれが熱心に活動に取り組み、終了時には積み重なっていた雪をほぼ排雪し歩道を確保することができました。その結果、交差点の見通しが改善されるとともに、雪によって狭くなっていた通行スペースが確保され、歩行者および車両が安全に通行しやすい環境が整いました。

当センターでは、今後も除雪ボランティアを含めた地域支援活動を実施していく予定です。



NOTICE

弘前大学資料館第41回企画展のご案内

ボランティアセンター東日本大震災復興支援活動～15年の歩み～



弘前大学資料館第41回企画展
**ボランティアセンター
 東日本大震災復興支援活動
 ～15年の歩み～**
 主催：弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
 弘前大学資料館
入場無料

令和8年

2月3日(火)～3月27日(金)※都合により開館期間の変更、臨時閉館がございます。

10:00～16:00 (入館は15:30まで)
 日曜・祝日休館

詳細はこちら



場所：弘前大学資料館（文京町地区キャンパス）
 お問い合わせ先：弘前大学資料館（電話）0172-39-3432（メール）jm3432@hirosaki-u.ac.jp
 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター（電話）0172-39-3268（メール）huvc@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学資料館第41回企画展
 ボランティアセンター 東日本大震災復興支援活動～15年の歩み～

東日本大震災から15年が経過した現在、日本各地では地震・豪雨・豪雪などの大規模災害が頻発しており、地域社会には「平時からの備え」と「発災時の迅速な連携体制」の重要性が改めて問われています。とりわけ地方においては、限られた人的・物的資源の中で、いかに官民学が連携し、持続的な復興支援を実現するかが大きな課題となっています。弘前大学では、東日本大震災発生当時、学内に常設のボランティアセンターが存在していませんでした。しかし、被災地支援の必要性を強く認識した教員有志が中心となり、学生、市民、市民団体、行政と連携しながら、即応的に支援体制を構築しました。その過程で誕生したのが、官民学が一体となった「チーム・オール弘前」です。チーム・オール弘前は、被災地での復興支援活動を継続的に展開するのみならず、その後も除雪支援、子どもの貧困問題、孤独・孤立対策など、地域が直面する多様な課題に対して、地域に根差した実践的な活動を続けてきました。このように、地域の大学が起点となり、官民学連携によって復興支援と地域課題解決を両立させてきた事例は全国にも珍しく、「弘前モデル」として日本災害復興学会などで注目を集めています。本展示会は、東日本大震災復興支援活動の15年を振り返り、弘前モデルがどのように形成され、どのような試行錯誤を経てきたのかを可視化することで、大規模災害に直面した際に地域の大学が果たしうる役割と、その可能性を広く共有することを目的とします。過去の経験を単なる記録として残すのではなく、今後にも続くであろう災害への備えとして、その教訓を次世代へ継承する場とすることを目指します。

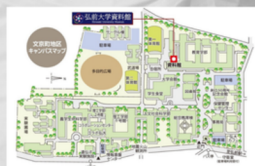
—主な展示内容—

東日本大震災発生直後から現在に至るまでの弘前大学およびチーム・オール弘前による復興支援活動の15年の歩みを、「記録」「映像」「体験」を組み合わせた構成で紹介いたします。

- パネル展示
- 活動動画上映
- 避難所体験コーナー
- 文化財レスキュー活動展示

非常食の実験を知り、日頃の備えの重要性を感じていただくために、アルファカの無料配布を行います。

弘前大学（文京町地区キャンパス）マップ



弘前大学地域創生本部ボランティアセンター



NOTICE

ボランティアへの参加、募集等について

・ボランティア参加希望の方

弘前市民の方・・・ひろさきボランティアセンター
 TEL：0172-38-5595

弘前大学関係者・・・弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
 E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

・学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。か、センターへ直接お電話等でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)



HP



X



Facebook



Instagram

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター 平日午前10時～午後3時

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 大学会館2階

TEL：0172-39-3268 FAX：0172-34-5251 / E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

